

2017年8月2日

報道関係各位

公益財団法人 国際高等研究所

**国際高等研究所「けいはんな“エジソンの会”」  
第13回（2017年度5回）会合の開催について**

公益財団法人国際高等研究所（木津川市、理事長 立石義雄、所長 長尾真）は、けいはんな学研都市が標榜する「立地機関間の連携とそれによる成果の創出」を促進するための立地機関によるコミュニティの形成と、この街ならではの基幹技術・基幹産業の確立を目指して、「けいはんな“エジソンの会”」を開催しています。

具体的な「オープンイノベーション」の成功事例を造り込むだけでなく、けいはんな学研都市のコアとなる科学技術ドメインを確立することで、世界をリードするサイエンスシティを目指しています。この度、第13回会合を下記の通り開催いたします。

**【開催概要】**

- ◆日時 8月29日（火）13：30～19：30
- ◆場所 国際高等研究所レクチャーホール（木津川市木津川台9丁目3番地）
- ◆参加者 けいはんな学研都市の立地機関を中心に50名程度
- ◆プログラム
  - 13:30～14:50 「IoT、ビッグデータ、AIは農業をどう変えるか」（仮題）  
井熊 均 株式会社日本総合研究所 専務執行役員
  - 15:00～16:20 「農業×ICTによるイノベーション ～アグリインダストリー創生に向けて～」  
若林 毅 富士通株式会社イノベティブIoT事業本部Akisai 事業部エキスパート
  - 16:30～18:00 インタラクティブ・セッション
  - 18:00～19:30 懇親会
- ◆参加費 5,000円 ◆定員50名、18歳以上
- ◆申し込み方法 高等研ホームページ <http://www.iias.or.jp/communication/edison> よりお申し込みください。

※当会合は一般参加者を受け付けております。当会合開催の告知記事のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。また、報道関係者の皆様も懇親会へご参加いただけます。この機会に是非ご取材いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

**報道関係者の参加申し込みについて**

別紙返信用FAX用紙もしくはメールにて、8月28日（月）までにご連絡をお願いします。

なお、報道関係者の皆様の参加費については無料です。

（本件に関する問い合わせ先）

公益財団法人国際高等研究所 広報課 森口 有加里

〒619-0225 京都府木津川市木津川台9丁目3番地

TEL: 0774-73-4000 FAX 0774-73-4005 携帯:090-4288-4001

E-mail: [kouhou@iias.or.jp](mailto:kouhou@iias.or.jp)

ホームページ: <http://www.iias.or.jp/>

## ○「けいはんな“エジソンの会”」の目指すところ

けいはんな学研都市が標榜する「立地機関間の連携とそれによる成果の創出」を促進するため、高等研が知的ハブとしての役割を果たすとともに、立地機関の研究者や技術者のコミュニティを形成し、具体的な「オープンイノベーション」の成功事例の確立に寄与することを目指しています。

取組みの核となる科学技術シーズの領域を人工知能～AI とし、2017 年度からは、AI について具体的な出口を見据えた研究開発を実践するために必要な内容を掘り下げて提案していくことに主眼を置き、研究機関や企業に属する様々な立場にある方々が、自ら AI を中心としたテクノロジーを活用し、具体的な製品、サービスを生み出すことができるようになるためのテーマ設定をしていきます。

具体的には AI とそれを取り巻く技術の最新動向を掘り下げて解説する「テクノロジー」編と、様々な分野における AI を駆使した最先端のソリューションや AI の活用に係る課題を扱う「システム・社会」編から、テーマを厳選してお届けします。AI を中心とした新たなテクノロジーがどのように活かされ、どのように新たなエコシステムが切り拓かれるのか、様々な分野の研究者や企業の皆様にも大いに参考にいただけるものと期待しています。

## ○第 13 回会合の概要

大地と人との対話であり、長年の勤に基づく労働集約的な従来型農業は、その姿を一変させ、IoT によって収集された圃場や農作物の詳細かつ大量のデータを基に、AI が適切な農作業を判断し、作業そのものを自動化、効率化するだけでなく、収量増大や品質向上を、天候や気温等外部環境の変化に左右されず行うことをも企図したインテリジェントな農業の時代が始まろうとしています。

スマート農機は、環境に応じた最適な動作を予測し自律運転を行い、ドローンは効率的に圃場全体の生育状況や外的環境情報を収集し、自律型の植物工場は季節や外部環境の影響を受けず、人手を必要とせず、種々のセンシングデータの解析結果から育成レシピを作成し、光、温度、湿度、水、肥料などを最適に制御して安定的に収穫を得ます。さらには、生物系（遺伝子組み換え）と化学系（農薬）のビジネスから脱却し、そこに ICT やサービスを取り込むことで、「収量保障」という農業の“As a Service”化に乗り出す企業まで現れてきています。

今回は AI や IoT、ビッグデータを駆使した全く新しいインテリジェント農業の全容について、成長産業としての農業の第 4 次革命（アグリカルチャー 4.0）で世界をリードするという観点から日本総合研究所の井熊均氏に解説いただきます。

また、ICT の観点からは、IoT、AI、ビッグデータとそれらをサイバー・フィジカル間で連携するクラウドネットワークを駆使したインテリジェントな農業のインフラストラクチャについて、内閣府「農林水産戦略協議会」、農水省「スマート農業の実現に向けた研究会」等の委員であり、農業クラウド事業のエキスパートである富士通の若林毅氏に解説いただきます。

## ○「けいはんな“エジソンの会”」の企画・運営を行う「企画運営委員会」（順不同、16 機関）

- ・ **研究機関**：理化学研究所、産業技術総合研究所、情報通信研究機構ユニバーサルコミュニケーション研究所、量子科学技術研究開発機構、国際高等研究所
- ・ **教育機関**：奈良先端科学技術大学院大学、滋賀大学、京都情報大学院大学
- ・ **企業**：西日本電信電話株式会社、サントリーホールディングス株式会社、パナソニック株式会社、株式会社島津製作所、京セラ株式会社、オムロン株式会社、株式会社国際電気通信基礎技術研究所、日本電産株式会社

## ○オブザーバー（順不同、9 機関）

- ・ 京都府、奈良県、木津川市、精華町、奈良市、国立国会図書館、関西文化学術研究都市推進機構、関西経済連合会、京都産業 21